

まちなか活性化協働学習プロジェクト

まちなか工房代表教員 溝上章志

1. まちなか活性化協働学習会

まちなか工場のまちなか活性化協働学習プロジェクトの主事業である「まちづくり学習会」は、工場の4つの活動のうちの学習交流機会の提供を目的とした事業である。この学習会は、工房教員が中心となり、商店街や熊本市などの地元関係者、まちなかの将来に関心を持つ市民や学生を対象に、月一回のペースで開催している協働学習会である。中心市街地の環境整備やまちづくり方策に関する交流機会と情報提供を目的としており、県内外から招いた専門家や実務経験者による講演を聞きながら、参加者と意見交換をしている。工房教員、中心市街地の主要商店街リーダー、熊本市職員等で構成された幹事会で、毎回、開催日程、講演テーマや講師などを企画・準備している。

本まちづくり学習会も、平成17年7月以来、今年度末には通算95回を数え、来年度には100回の節目を迎えようとしている。学習会の参加者は30～50名を数える。商店街からも話を聞いてみたい講師や講演内容の希望が出されるなど、種々の方面からの講演者によるまちづくりに対する熱い語りを身近に聞く機会として定着してきた。の開催数となった。

今年度は75回～84回までの計10回の学習会を実施した。そのうち2回は国内の大学の教員による講演であった。表1に、本年度開催した11回のまちづくり学習会のテーマと講演者を列挙している。大学関係者が5組、行政が1人、民間のまちづくり実践者が5組など、非常にバラエティに富んだ講師となっている。図1にはこれらのうち、新聞報道されたものの例を示す。いずれの講演もまちづくりへの熱い想いや秀でた企画技術についてであり、参加者は興味を持って聴講し、質問をしていた。

2. まちなか工房4教員による「よく分かる熊本のまちづくり」の開催

6月のまちづくり学習会では、安政町 日専連ホールにおいて「よく分かる熊本のまちづくり」をテーマに、まちなか工房所属の4人の先生が研究成果を発表した。すきたい熊本協議会、(株)まちづくり熊本のご支援を得て、拡大版学習会とし、約100人の参加があった。

発表は、①集約型都市構想計画に基づく熊本市都市マスタープランの検討／発表者：位寄和久教授、②中心市街地における回遊行動の分析と回遊促進策／溝上

章志教授、③歩道のリニューアル計画-地元商店街とのコラボ-／星野裕司准教授、④熊本市中心地区省エネルギー化の経済効果と可能性／田中昭雄教授の4題。その後、田中教授、星野准教授、松永和典氏（すきたい熊本協議会）、田中隆臣氏（熊本市都心活性推進課長）をパネラーに「まちなか工房に期待するこれからのまちなかの分析とデザイン」をテーマにパネルディスカッションを行った。コーディネーターは、富士川一裕・まちなか工房特定事業研究員。

熊本市内でも、いろんな施設が近くにあって生活利便性の高いところとそうでないところがある。中心商店街という限られたエリアの中でも、人がよく通るところとそうでないところがある。そうした格差は、個々人が感覚的に分かっているものだが、それを数値に置き換えたり、ランキングして地図上で分かりやすく表示してくれたりすると、みんなで共通認識を持つことができる。そうして現状分析ができれば、同じ計算式や地図表示の方法を用いて、将来道路や商業施設を整備した場合の市民の暮らしやすさや来街者の回遊の変化を推測し示すことができる。その意味で、位寄教授、溝上教授の発表内容は、専門的・学術的ではあるが、今後のまちづくりの計画立案に役に立つものであると思っただけなら、ありがたい。他方、星野准教授や田中教授の取り組みは、銀座通りの歩道の補修に際してタイル模様のデザインを提案したり、商店街における省エネの取り組みの意義を裏付けるデータを示したりするという点で、具体的なまちづくり活動に直接関与するものである。

まちなか工房は、平成18年の開設から丸8年が経過し、「臨時的」なまちなか研究の成果が蓄積されつつある。9年目の活動に入った今、研究成果を地域社会に還元すべく、地域の方々との一層の関係強化に努めなければならないであろう。

当日は100人を上回る参加者があり、フロアからの質問や議論も活発に行われた。これは、熊本市中心部への新幹線開業の影響が数値的に分析されていること、これからのまちづくりにどのように取り組めば良いかのヒントが得られたことなどによるものと思われる。

3. 人材育成境域プログラム「まちなか工房ワークショップ技術講座」の開催

まちなか工房では、平成24年度より、行政やNPOの職員、学生、まちづくりの実践者などを対象に、ワークショップの企画・運営に関する基礎知識と応用技術の習得を目的とした講座を開いている。平成25年度は、下記の3つの講座を開催し、いずれも10~15名の受講者があった。講座の概要は以下の通りである。

1) 人口ピラミッドで学ぶ(平成25年6月14日 講師:前田芳男/まちなか工房)(図2参照)

1920年から2040年(推計値)までの日本及び熊本県の5年ごとの人口ピラミッドのカードを準備し、これを年度の古い順に並べる作業をした(カードには年号は記載されていない)。戦後は、いわゆる団塊の世代の人口が突出しているの、これを判断基準にしてほぼ正答を出すことができたが、戦前の予想は難しく誤答が多くなった。熊本と全国では、人口ピラミッドの形に顕著な違いがみられ、人口の都市部への集中や地方での少子高齢化の急速な進展について、改めて考えることができた。

2) 絵本のストーリー創作(平成25年7月13日 講師:前田芳男/まちなか工房)

既刊の絵本「ちゃいろにわたりのちゃーぼう」の原画をカードにしたもの(26場面)を用い、これを自由に並び替えて、原作とは異なる独自の物語を、親子で協力しながら作った。小学校2年生から5年生までの児童5人とその父母、合わせて5組の参加があり、ユニークな話が5つ生まれ、最後に紙芝居風に発表した。子どもの自由な発想には驚かされ、目を細めることが多かった。これを生徒同士で行えば、コミュニケーションの訓練になり、看图作文の教材としても活用できる。

3) おもちゃづくりワークショップ(平成25年12月3日 講師:宮原美智子/NPO九州環境サポートセンター)

ワークショップを企画・運営する者には、おもちゃづくりは必須の技術である。ガチガチの頭を柔らかくしてくれるし、協同作業の楽しさを教えてくれる。ワークショップのアイスブレイクにも使えるし、宴会芸にもなる。講座では、①カサを入れるビニール袋(雨の日にデパートの入口に置いてある)に絵を描き、風船のように膨らませて紙コップの中からピヨーンと飛び出すおもちゃ、②新聞紙を丸めた棒で皿回し、③新聞紙を胸に当てて落ちないように走る、④新聞紙のコヨリ相撲(松葉のようにして引き合って切れた方が負け)、⑤新聞紙のボールでキャッチボールなど。新聞紙一つで、こうも色んな遊び(道具)をつくり出せるものかと驚いた。何より、受講者と一緒に学びの場を創り、運営していくこと意義を実感できた。

本講座の参加者には、まちなか工房名で修了証を授

与している。また、事後に行った受講者へのアンケートでは、現在自分が抱えている業務を題材にしてワークショップの組み立てや運営を疑似体験する実践型研修のニーズが高かったことから、平成26年度はより充実させた人材育成プログラムを提供する予定である。

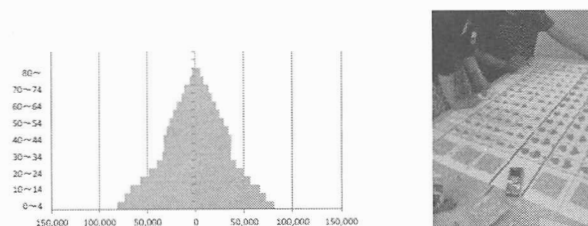


図2 「人口ピラミッドで学ぶ」講座



図3 「絵本ストーリー創作」講座



図4 「おもちゃづくりワークショップ」講座

表 1 平成 25 年度に実施したまちづくり学習会の概要

回	日時	テーマ	講演者	所属
85回	2013.4.26	町人による熊本城下町の運営	松崎範子氏	熊本大学文学部附属永青文庫研究センター 技術支援員
86回	2013.5.23	中央区のまちづくりについて	前淵啓子氏	熊本市中央区長
87回	2013.6.18	よく分かる熊本のまちづくり！	位寄和久氏 溝上章志氏 星野裕司氏 田中昭雄氏	まちなか工房（熊本大学）
88回	2013.7.25	7月12日を振り返ってー平成24年九州北部豪雨の被害とその影響ー	山田文彦氏 柿本竜治氏	熊本大学大学院自然科学研究科教授
89回	2013.8.26	鶴屋のイノベーション	久我彰登氏	㈱鶴屋百貨店代表取締役社長
90回	2013.9.26	ありふれた奇跡をみんなで起こす	大西康伸氏	熊本大学大学院自然科学研究科准教授
91回	2013.10.24	未来商店街の今までとこれから	黒田征太郎氏	陸前高田未来商店街 事務局
92回	2013.11.28	住民参加とまちづくり	佐谷和江氏	㈱計画技術研究所 代表取締役
93回	2013.12.19	三都市シンポジウム in 岡山と全国まちづくり会議 in 長岡の報告	泉 冬星氏 富士川一裕氏	すきたい熊本協議会会長 まちなか工房特定事業研究員
94回	2014.2.27	墨東のアート+まちづくりの実践について	谷山恭子氏	アーティスト
95回	2014.3.24	熊本駅周辺の都市空間デザイン	田中智之氏 星野裕司氏	まちなか工房（熊本大学）



図 1 まちづくり学習会の新聞報道